

平成 31 年度使用高等学校  
(第 1 部)  
教科書編集趣意書  
家庭 (家庭基礎) 編

目次

	ページ
006 教図 家庭基礎 ともに生きる 明日をつくる .....	1
006 教図 最新 家庭基礎 生活を科学する .....	3

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
006 教図	家基 302	<b>家庭基礎</b> ともに生きる 明日をつくる 代表著作者 小澤 紀美子

## 編集の基本方針

生徒自身の生活をよりよくし、豊かな人生に向かう手段を学ぶ教科として家庭科を位置づけました。日常のさまざまな事象が関連し合い、私たちの生活を形作っていることを知るため、右のような模式図を作成し、学習の方向性を明確にしました。

全体を通して、身の回りの気付きからスタートし、地域や社会に向かって学習が広がっていくよう構成しています。

### 編集上特に留意した点

男女の平等、自立と共生、少子高齢化への対応、家庭生活の環境への影響などの社会的な問題に重点を置き、それらの問題を自分で考えるために必要な資料を数多く掲載しています。キャラクターを設定し、生徒個人のプライバシーに踏み込むことなく家族・保育・高齢者の領域を学習できるよう工夫しました。また、学習の導入やまとめとして利用できるよう各単元の始めに「KEYWORD」を設け、重要語句を整理しました。

誰でも使いやすい教科書を目指し、ユニバーサルデザインカラーを用いています。

## 教科書内容の編成，内容の組織，配列

ともに生きる 人のつながりと福祉

### 第1章 人の一生と家族

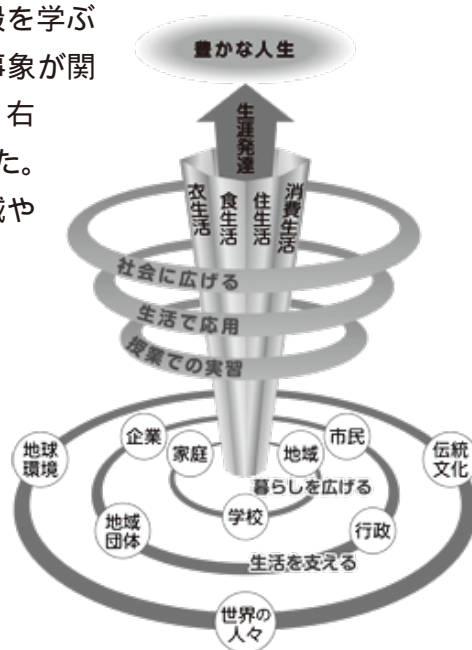
現在、大きな問題となっている「雇用」や「職業労働」について 記述や資料を大幅に増やし、学習を深められるようにしています。また、家族の機能や社会とのかかわりについて、科学的に理解できるよう配慮しました。

### 第2章 保育

乳幼児について、最新の科学的知見をできる限り多く取り上げました。乳幼児の発達の様子については、粗大運動の発達に沿った写真で解説し、身の回りの乳幼児に当てはめられるように工夫しています。

### 第3章 高齢者

人口の高齢化や高齢期について、科学的な説明を心がけ、正確な知識や態度が身につくよう工夫しています。



家庭科の学習模式図



家族領域の学習をサポートするキャラクター  
コウタ（中央）と家族

## 第4章 共生社会

ボランティア活動や NPO 活動について、生徒が身近に感じ、参加をうながすような資料や事例を多く掲載しています。社会保障制度について、海外の仕組みを紹介し、改めて日本の制度を考えられるようにしました。

明日をつくる 快適な生活と環境

### 第1章 食生活

個人の食卓という小さな場から学習をはじめ、世界の食について考えられるように順を追って紹介しています。調理実習では、さまざまな授業形態に対応できるように、1時間のできるメニューを取り上げています。

### 第2章 衣生活

衣服計画を、購入から廃棄までの流れに沿って学習していきます。生徒が興味をもって取り組めるよう、ファッションコーディネートなど身近な内容にも触れました。科学的な内容や伝統に関するコラムなどを多く掲載しています。

### 第3章 住生活

家も地域も、その中心は人であるという考え方にに基づき、人間を中心とした視点で住生活をとらえていきます。また、人体寸法と動作寸法を学ぶことで、家の中における空間や動線の意味を実感し、間取りの奥深さを学びます。

### 第4章 消費生活

金融商品や販売信用などを具体的に扱い、家計を通じて将来に向けた生活設計ができるよう工夫しました。また、消費者の行動が社会を変えることを明記し、一人ひとりが「消費者」としての立場を自覚し、自立できるよう様々な観点から消費行動を見つめています。

### 第5章 環境

私たちの便利で快適な生活を維持するために、さまざまな環境問題が起こっていることが実感できるような、豊富な資料や事例を取り上げています。その上で、個人個人の取り組みだけでなく、社会全体で環境問題に取り組んでいく必要性を感じられるようにしています。

## 学習指導要領 / 教育基本法との関連

日本の伝統のコラム「JAPAN」と、それに対応する国際的なコラム「WORLD」(右図参照)を作成し、自分の国を知りつつ、世界を理解できるグローバルな視点を養えるようにしています。生徒一人ひとりが自分の考え方を確立できるような課題研究を、各章の最後に設けています。課題研究に取り組み、話し合うことで、学習指導要領で重視されている言語活動の充実を図ることができます。

また、自らの人生を見通すことができるよう、全ての学習の後に「人生設計」のページを作成し、教科書に登場するキャラクターに将来の夢や希望を語らせ、自らの将来を考える手がかりとなるよう工夫しました。



発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名
006 教図	家基 303	<b>最新 家庭基礎</b> 生活を科学する 代表著作者 小澤 紀美子

## 編集の基本方針

私たちの生活の裏にある原理や科学性に気付かせ、その科学的根拠を多く示すことで、暗記型ではない知識が身につく構成になっています。

生徒の学習への主体的な態度を養うため、各節を価値観や考えを見つめ直すチャート表からスタートし、意思決定を促す資料で終わる構成になっています。各節の始めには学習の模式図が載っているので、自分が何を学んでいるかいつでも確認できます。

## 編集上特に留意した点

簡潔な文章を心がけ、少ない時間数で漏れなく学べる内容となるように留意しています。図表を読み解く力を養い、生徒自らが人生観・生活観を築けるよう、さまざまな視点の資料を掲載しています。誰でも使いやすい教科書を目指し、ユニバーサルデザインカラーを用いています。

## 教科書内容の編成、内容の組織、配列

### 第1章 人の一生と家族・福祉

#### 人の一生と青年期

青年期の課題と家族・家庭、職業労働・家事労働を関連させて記述し、身近に感じられるように工夫しました。現在、大きな問題となっている「雇用」や「職業労働」について、記述や資料を大幅に増やし、学習を深められるようにしています。

#### 子育てを学ぶ

乳幼児について、最新の科学的知見をできる限り多く取り上げました。乳幼児の発達の様子については、粗大運動の発達に沿った写真で解説し、身の回りの乳幼児に当てはめられるように工夫しています。

#### 高齢者の生活

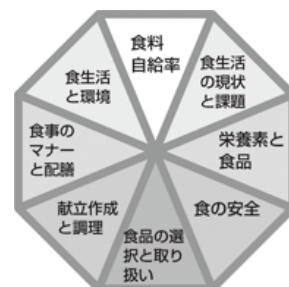
人口の高齢化や高齢期について、科学的な説明を心がけ、正確な知識や態度が身につくよう工夫しています。

あなたの食生活をふり返り、A・Bどちらの価値観に近いと考えて○をつけてみよう。

	A	B
1	食べることを楽しんでる	空腹を満たすためだけに食べている
2	食事時間を短縮するため、何かをしながら食べるが多い	食事の時間をゆとり取り、家族や友だちと食べるが多い
3	時間がかかっても手作りの料理が食べたい	市販のお弁当や惣菜、レストランで食事をするなど、時間を有効に使っている
4	お金を節約するため、特売品や有名企業以外の食品を買うことが多い	値段が高くても、環境に配慮した食品や健康によさそうな食品を買うことが多い

自分の考えていることが、整理できただろうか。家族や友だちは、どのような考えだろうか。話し合ってみよう。

価値観や考えを見つめ直すチャート表



各節の学習模式図

## 生活を支える仕組み

私たちの生活が、公的な仕組みとともに地域コミュニティなど、公によって支えられていることを実感できるように工夫しました。ボランティア活動や NPO 活動について、生徒が身近に感じ、参加をうながすような資料や事例を多く掲載しています。

## 第2章 生活の自立のために

### 食生活

食に関するさまざまな問題に関する多くの資料を掲載し、ひとつの視点にとらわれずに多面的に考えられるように配慮しました。栄養学など、従来の教科書より一步踏み込んだ科学的な内容を扱いました。さまざまな授業形態に対応できるよう、1時間のできる調理実習を取り上げています。

### 衣生活

着心地や、流行のしくみなどを科学的な視点からとらえることで、生徒が何を基準に衣服を選択すればよいか考えられるつくりになっています。衣服実習の代わりに、要らない布を利用して、手縫いで簡単に作れるブックカバーを紹介しています。

### 住生活

家も地域も、その中心は人であるという考え方にに基づき、人間を中心とした視点で住生活をとらえていきます。また、人体寸法と動作寸法を学ぶことで、家の中における空間や動線の意味を実感し、間取りの奥深さを学びます。

## 第3章 経済的に自立する

### 消費生活

消費者の行動が社会を変えることを明記し、一人ひとりが「消費者」としての立場を自覚し、自立できるよう様々な観点から消費行動を見つめています。

### 家計を管理する

金融商品や販売信用などを具体的に扱い、家計を通じて将来に向けた生活設計ができるよう工夫しました。

### 環境に配慮した暮らし

私たちの便利で快適な生活を維持するために、さまざまな環境問題が起こっていることが実感できるような、豊富な資料や事例を取り上げています。その上で、個人個人の取り組みだけでなく、社会全体で環境問題に取り組んでいく必要性を感じられるようにしています。

## 学習指導要領 / 教育基本法との関連

教育基本法に則り、生徒が自ら主体的に判断し、自分の生活を創造していけるよう、各章導入としてチャート表を掲載しました。学習前と学習後に利用し、その価値観がどう変わったかを実感できるつくりになっています。また、各章の終わりには、さまざまな資料から自分なりの考え方を確認できるページを作成しています。これらのページは、学習指導要領で重視されている言語活動の学習にも活用できるようになっています。